

松虫駅(阪堺電車上町線)

ここは陰陽師・安倍晴明の里なり

東天下茶屋駅(阪堺電車上町線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.036

阪堺松虫駅

①松虫塚

昔、このあたりは見渡す限りの原野で、秋には虫の声が満ち、特に松虫(いまの鈴虫)の澄んだ音色が美しい名所として知られ、能楽『松虫』の舞台にもなりました。また『芦分船』によると、後鳥羽上皇(1180~1239)が寵愛した白拍子の松虫、鈴虫姉妹が隠れ住んだといった伝説なども残されています。道路計画で樹齢800年のエノキの神木が伐採される予定でしたが、住民の熱心な保存運動で残され、いまでも大切に守られています。

②伊東静雄文学碑

伊東静雄(1906~53)は長崎県諫早市生まれの詩人です。京大卒業後、旧住吉中学校に国語教師として赴任しました。ひたすら『古事記』を教えたので学生から「古事記」という渾名をつけられた名物教師でした。この界隈に住み、松虫界隈をよく散策したという縁から昭和59年(1984)、文学碑が建立されました。

③熊野街道

渡辺津(窪津)を起点とし、熊野三山への参詣に利用された街道です。平安時代中期頃から上皇や貴族の熊野詣が盛んになり、後白河上皇は34回、後鳥羽上皇は28回も参詣しています。やがて武士、庶民もこれに続き、たくさんの人々がこの街道を行き来したため、「蟻の熊野詣」と呼ばれるようになりました。

④安倍晴明神社

平安時代の天才陰陽師・安倍晴

明(921~1005)が生誕したという伝承地です。寛弘4年(1007)にその死を惜しんだ花山上皇の命により創建されました。『今昔物語』等によると、安倍晴明は式神を使役し、「占い事は神の如し」と伝えられ、その特別な能力から、母親は信太の森(和泉市)の白狐「葛之葉」だったという伝説などが残されています。



⑤阿倍王子神社

「あべの」の地名の由来となった安倍一族の氏神社です。平安時代に熊野信仰が盛んとなり、熊野街道が整備されると、紀州熊野大社の末社、熊野九十九王子の第二王子社となり、現在では大阪府下唯一の旧地に現存する王子社です。

⑥天王寺蕪の碑

阿倍王子神社境内にあります。天王寺蕪は『摂陽群談』『和漢三才図会』などに紹介されている。なにも伝統野菜で、与謝蕪村は「名物や 蕪の中の 天王寺」と絶賛しています。宝歴6年(1756)に信州健命寺の住職・晃天園瑞和尚が京都遊学の折、あまりの美味しさに天王寺蕪の種を持ち帰りましたが、気候と土質が影響して蕪は育たず、代わりに葉っぱだけが巨大に成長しました。それが「野沢菜」の誕生です。



阪堺東天下茶屋駅

